

「単科の看護専門学校も、多職種学生と共に学ぶ機会を持てる！」

カテゴリー：④連携（多職種）

砂川市立病院附属看護専門学校

北海道砂川市西4条北1丁目1番5号

3年課程 1学年定員数：35名 修業年限：3年



背景

2022年度看護基礎教育カリキュラム改正での多職種連携強化を受け、2021年度より他校との多職種連携教育の取り組みを始めた。コロナ禍であったが、本校の強みである、ICT技術を活用しweb会議システム・クラウドを使用した授業を実施。

経過「約90km離れた医療分野の専門学校と繋がる！」 連携先 A校と

手探りで実施した多職種連携教育だったが、学生の「専門職になる」刺激やモチベーションの向上となった。

年度	科目	対象学生	内容	方法
'21	小児看護学 方法論II	本校2年生31名 A校救急救命学科 3年生約80名	「アナフィラキシーショックの小児と家族の対応」病院搬送前の救急救命士の対応、病院到着後の看護師の対応を相互の立場からプレゼン	一部対面,web会議システム併用のハイブリッド形式
	成人看護学 概論	本校1年生30名 A校救急救命学科 3年生約80名	職種紹介を互いにプレゼン	完全オンライン web会議システム
'22	総合医療論	本校3年生31名 A校救急救命学科 3年生約80名 臨床検査学科 3年生約40名	「小児の熱性痙攣の重症発作」事例は第2段階まで用意,授業冒頭に第1段階提示しグループディスカッション,割り込みで第2段階を提示しグループディスカッション,まとめ発表	完全オンライン web会議システム,クラウド型学習管理システムを使用

2022年度はステップアップし、A校臨床検査学科の学生さんも加わり、チーム形成を意識した多職種教育を目指した。

各グループは3科で編成した。

本校学生には、当日までの2回の授業で「共に学習する専門職調べ」「多職種連携で求められる能力」の講義を実施。

グルーピングや事前学習、オリエンテーション、グループディスカッション時のワークシートは全てクラウド型学習管理システムでA校と共有。

途中、リモートトラブルがあったが、**3科の学生が協力して困難を乗り越える姿**が印象的だった。**各職種に尊敬の念を抱き、特に直接的に接する機会が少ない臨床検査技師の多面的思考を知れた事が貴重な時間となった。**本校の学生は本授業での**職種間の調整・橋渡し役を主体的に担っていた。**

本校の多職種連携教育の意義

1. 地域住民の健康の担い手として活躍できる質の高い看護職者の育成を目指す（教育理念の実現）
2. 対象を取り巻く切れ目のないケアを実践するために、多職種と協働する基礎的能力や、多様な価値観をもつ他者を尊重した共感的態度をもとにした関係の発展（教育目標の達成）
3. 看護職を含んだ多職種と、共通のゴールに向かうために協力するチームと認識し、チーム成員がお互いを理解し好意的に捉えられることを目指した教育の実現



“**教員同士も連携が必要である**”
組織間での授業計画と運用を目指す

学生達の学びを成功させる秘訣は、相手校の教員との計画的、綿密な連携であることを、実施を通して教員も学んだ。

2022年度の実施後、相手校と授業の振り返りの会をオンラインで開催した。オンラインで学び合うのは学生間の意見の本意が伝わりにくい時があること、リモートならではのトラブルがディスカッションの障害となることから、できるだけ対面での実施が良いことが挙がった。事例は臨床推論の意見交換となっていたこと、多様なニーズを満たすために互いの学校の教員の持ち回りで企画できると良いなど、実施から見えた課題と今後の方向性を確認し合えた。

2023年度は新たにA校の系列リハビリ専門学校と、新カリキュラム地域・在宅看護論内で計画している。

- ・職種紹介で相手の職種の理解ができ、改めて看護職の専門性を意識できました（1年生）
- ・同じ対象でも職種の役割で見方が違う事、共通の情報共有事項を見出せました（2年生）
- ・学生という近い立場で意見交換するのが新鮮、多職種連携の際に看護師がすべき事を再確認できました（3年生）